

## めざす児童生徒像

## 未来の創り手となる子の育成

- ・自ら学ぶ子（自分の学びや活動を振り返り、生かしながら、よりよくなろうとすることができる）
- ・共に生きる子（周囲に対してやさしい心で接し、他との対話を通して自他の良さに気づくことができる）
- ・たくましい子（学校において、新しいことに挑戦したり、粘り強く努力したりすることができる）

※児童生徒結果・教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)組織的な学校運営	人材育成	全ての項目で、肯定的な回答を100%にする。	① あたり前を尊重し共通の対応を行っている。						
			② 職員間でのコミュニケーションを図っている。						
			③ 多角的・多面的に検討し、担当業務に取り組んでいる。						
			集計						
石川県共通	業務働き方改善	②の項目で、肯定的な回答を100%にする。	① 80時間越えゼロに向か、時間外勤務の削減に取り組んでいる。						
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。						
			③ 担当業務の優先順位を決めて、取り組んでいる。						
			集計						
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	学校研究	③を実践している教員の割合を100%以上にする。	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。						
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。						
			③ 既習掲示やICT活用、教材の工夫など、自分で考えたり、その考えを他者に伝えたりすることができる工夫をしている。						
			集計						
小松市共通重点項目	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①～⑥の項目で教員の肯定的な回答の平均を80%以上にする。	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。						
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え方(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考え方を伝えている。						
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。						
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。						
小松市共通重点項目	カリキュラム・マネジメント	①②③④の項目の割合が85%以上にする。	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。						
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを確立している。						
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。						
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)						
			集計						
小松市共通重点項目	学力の向上	①②③④の項目の割合が85%以上にする。	① 各教科において、学ぶ目あてや自分の考え方を持ち、どうしたら解決できるかを考えている。						
			② 自分の理解度に合わせてICTを使った課題に進んで取り組んでいる。						
			集計						
小松市共通重点項目	学習方法	①②の平均が80%以上にする。	① 各教科において、学ぶ目あてや自分の考え方を持ち、どうしたら解決できるかを考えている。						
			② 自分の理解度に合わせてICTを使った課題に進んで取り組んでいる。						
			集計						